

はっさわうるしくぼ 八沢漆久保遺跡

秦野市No.172

調査期間 2019年5月16日～2019年6月15日

所在地 秦野市八沢

時代 近世、中世

調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅から北西約3kmの北西から南東に延びる丘陵上



主な調査成果

近世と中世の遺構を発見しました。

近世では、丘陵斜面地を平坦面に造成する段切りと土坑が見つかりました。

中世では、溝状遺構が見つかりました。遺構内からの遺物の出土が少なく、帰属時期の判断に困りましたが、遺構覆土の上層に宝永火山灰が堆積していたので、これを元に中世と推定されます。遺構は丘陵の稜線に沿って作られており、隣接する市道とほぼ平行にはしります。機能は、推測の域を出ませんが、道として用いられたと考えています。



1区 中段 近世土坑



1区 C1号溝状遺構中央部



1区 C1号溝状遺構南東部



1区 C1号溝状遺構北西部